

新 名 誉 会 員 の 紹 介

今野 浩 氏

昭和 15 年 8 月 生 (工学博士, Ph. D.)

今野浩氏は、穏やかな表情と、その内に抱いた情熱の人である。70年代半ば、様々な数理計画問題を抱え、悩み、意見を交わす研究者の熱気が大手町の電力中央研究所の会議室に満ちていた。この整数計画法研究部会の中心にいつもいたのが氏であった。「非線形計画法」に続いて、その熱気は「整数計画法と組合せ最適化」にまとめられ、さらに「数理決定法入門—キャンパスのOR—」では若い研究者や学生にORの面白さを語って聞かせた。国際数理計画シンポジウムの日本開催をにらんで立ち上げた数理計画シンポジウムは、研究者や大学院生のネットワークを広げ、緊密にし、我が国における数理計画の研究を世界に伍する水準に引き上げる契機となり、現在に至るもその原動力であり続けている。そして、1988年の国際数理計画シンポジウムの招致に続いてカーマーカー特許事件の勃発である。異議申し立てから2003年の敗訴までの10年の長きにわたる、時に果敢で、時に辛抱強い、我が身を顧みない行動には、こんな愚かしいことを何としても防がねばとの工学者の熱い思いが溢れていた。多くの工学者がいわれもない嫌悪感を払拭できないでいる時期から、金融工学の重要性と、そこがOR人の活躍すべき重要な場であることに気付き、理工工学の研究と普及に努めた。さらに、同氏を長らく悩ませてきた双線形計画問題を解くべく、「理論的には何もきれいなことなど言えない」との大方の批判を他所に、大域的最適化に努力を傾け、Optimization on Low Rank Nonconvex Structuresに結実させた人である。デュマの「モンテ・クリスト伯」は「待て、しかして希望せよ！」と結ばれている。氏はそんな人である。

本学会は、同氏のご功績をたたえ、去る2月26日の臨時総会において、同氏に本学会名誉会員の資格を授与することを満場一致で議決しました。ここにご報告を兼ね、同氏に対して心からの感謝の意を表したいと思ひます。



略 歴

- 昭和 40 年 東京大学大学院数物系研究科応用物理学専攻修士課程修了
- 昭和 41 年 (財)電力中央研究所研究員
- 昭和 46 年 スタンフォード大学大学院オペレーションズ・リサーチ学科博士課程修了
- 昭和 49 年 筑波大学電子・情報工学系助教授
- 昭和 57 年 東京工業大学工学部教授
- 平成 8 年 同大学院社会理工学研究科長
- 平成 11 年 同理財工学センター長
- 平成 13 年 中央大学理工学部教授 現在に至る

OR 学会関係

- フェロー 昭和 63 年度より
- 第 9 回文献賞 昭和 56 年度
- 第 4 回業績賞 平成 14 年度
- 論文誌編集委員 昭和 53~57 年度
- 研究普及理事 昭和 58・59 年度
- 国際委員 昭和 59・60 年度
- 編集理事 昭和 61・62 年度
- 表彰委員 平成 4~8 年度
- 評議員 平成 4~9 年度, 平成 12・13 年度
- 副会長 平成 9・10 年度
- 表彰委員長 平成 9・10 年度
- 代議員 平成 14・15 年度, 平成 18・19 年度
- 会長 平成 16・17 年度

西田俊夫 氏

昭和2年7月生（理学博士）



西田俊夫氏は、昭和25年京都大学理学部数学科をご卒業後直ちに神戸大学助手に就任され、昭和27年から34年まで同大学講師として主として応用確率論の教育・研究に携わられました。この間エイコフ・サシーニ著 Foundation of Operations Research の翻訳を始めとして応用確率論関係の多くの論文を発表されています。同時に故横山保先生らとともに関西におけるORの実践・研究組織「経営科学協会」の設立に参加され、OR誌の前身ともいえるべき機関誌「経営科学」を発行するなど黎明期の我が国ORの先達としての役割を果たしてこられました。昭和34年甲南大学理学部にORとコンピュータの専門学科「経営理学科」が設立されるとともに専任助教授として招聘され、38年教授昇任、42年～平成2年大阪大学工学部教授を歴任され一貫してORの実践者・研究者の育成に当たられるとともに、関西生産性本部、関西OR協会、大阪工業会、日本科学技術連盟等の統計・QC・IE・ORコースの講師を務められるなど普及・啓蒙活動にも積極的に参加してこられました。この間の著作活動は応用確率論、応用統計学、品質管理、オペレーションズ・リサーチ全般、ゲームの理論、ファジィ理論と実に広範囲にわたっています。大阪大学ご退官後大阪国際大学に移られ、以後同大学の国際関係研究所長、経営情報学部長を歴任され、平成10年から12年までは学長として大学の経営にも手腕を発揮されました。

本学会においては幹事・理事・関西支部長・副会長等を歴任され、学会の組織作り、特に関西支部の形成・発展に尽力されるとともに、多くの学会員の指導と支援に努めてこられました。

本学会は、同氏のご功績をたたえ、去る2月26日の臨時総会において、同氏に本学会名誉会員の資格を授与することを満場一致で議決しました。ここにご報告を兼ね、同氏に対して心からの感謝の意を表したい

と思います。

略 歴

- 昭和25年 京都大学理学部数学科卒業
- 昭和25年 神戸大学理学部助手
- 昭和27年 同講師
- 昭和34年 甲南大学理学部助教授
- 昭和38年 同教授
- 昭和42年 大阪大学工学部教授
- 平成2年 大阪大学名誉教授
- 同年 大阪国際大学経営情報学部教授
- 同大学において、国際関係研究所長、経営情報学部長、学長を歴任
- 平成15年 大阪国際大学名誉教授
- 同年 (株)NBL 会長、現在に至る

OR 学会関係

- フェロー 昭和57年度より
- 第13回普及賞受賞 昭和63年度
- 論文誌編集委員 昭和45年度
- 評議員 昭和45～52年度、昭和55・56年度、昭和63年度～平成3年度
- 関西支部支部長 昭和52・53年度
- 監事 昭和52・53年度
- 副会長 昭和54・55年度

原野秀永 氏

大正7年12月生（工学博士）

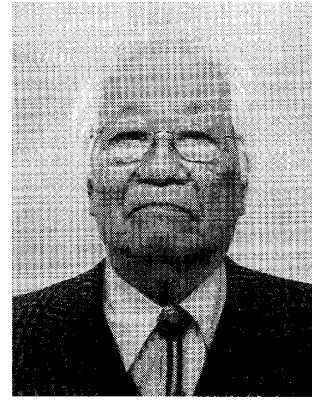
原野秀永氏は、昭和18年大阪帝国大学電気工学科をご卒業後、東京芝浦電気KKに入社、昭和18年には帝国海軍に技術士官としてご奉職され、終戦間近い海軍の潜水艦技術、特にその電波技術などに貢献されました。戦後は東芝に復帰、当時米英より導入された新しい管理技術であるORやQCに深い興味を寄せられ、まずその社内において、実施と普及に尽力されました。全国各地の工場現場ばかりでなく、病院の建設においても、OR技術にもとづいた設計をされるなど、幅広い活動と大きな実績を積み重ねられ、それらは、OR学会“実施賞”，“大河内賞”，通産省“標準化功労賞”などの多くの賞によって高く評価されております。

さらに、社外においても、日本能率協会、日本科学技術連盟、そして日本OR学会などの諸団体の活動にも積極的に参加され、我が国のORの普及に広くかかわってこられました。

本学会においては、幹事、諸委員会委員長、理事、副会長等を歴任、創立間もない学会の組織作りに多大の貢献をされると同時に、多くの後輩の指導と支援に努めてこられました。今日、日本OR学会において指導的な立場にある方々の中にも、若き日、原野氏の薫陶と激励を受けた方が少なくありません。さらに、東芝ご退職後は、日本システムにて各種のシステム作りに活躍された後、文教大学教授に就任され、経営工学科の設立に尽力、多くの学生を育て、今日の隆盛を導かれました。

このように原野氏は、まさに日本のORの草分けとして活動された方々のお一人であり、我が国のORの発展と歩みをとものにされ、大きな足跡を残されています。米寿を迎えられた今日も、学会の研究発表会に頻繁に参加され、後輩からも深く敬愛されておられます。

理事会は同氏のご功績をたたえ、名誉会員に推挙することを決め、去る2月26日の臨時総会に諮ったと



ころ、満場一致で可決されました。ここにご報告を兼ね、同氏に対して心から感謝の意を表したいと思えます。

略 歴

昭和18年	大阪帝国大学電気工学科卒業
同年	東京芝浦電気(株)入社
昭和19年	海軍技術中尉任官
昭和20年	東京芝浦電気(株)復職
昭和44年	同社電子計算機事業部主幹
昭和50年	同社退社
同年	日本システム(株)常務取締役
昭和58年	文教大学情報学部教授
平成4年	同退任
平成8年	文教大学情報研究所退任

OR学会関係

フェロー	昭和54年度より
第17回普及賞受賞	平成4年度
評議員	昭和37年度～平成元年度
無任所理事	昭和42・43年度
庶務理事	昭和44・45年度
表彰委員	昭和49～56年度、昭和59年度～平成3年度
副会長	昭和51・52年度
OR基本課題委員	平成5年度